

横浜吉田中学校第二校舎における日本語支援拠点施設について

旧富士見中学校の跡地において、横浜吉田中学校の教育環境の充実と外国籍等児童生徒の急増への対応等を踏まえ、新たに第二校舎を整備し、現在横浜吉田中学校内にあるコミュニティハウスを移転するとともに、日本語支援拠点施設を新設します。

つきましては、日本語支援拠点施設の内容について、ご説明します。

1 学校の現状

(1) 日本語指導が必要な児童生徒の急増

外国籍等児童生徒及び日本語指導が必要な児童生徒の急増に伴い、学校での対応の多様化や、日本語指導が必要な児童生徒が集中する学校での教科指導時間の確保、子どもの学力向上への対応が課題です。

【参考】

① 外国籍等児童生徒数及び日本語指導が必要な児童生徒数（小中学校）

| | H24 | H27 | 3年間の増加人数 |
|-------------|--------|--------|----------|
| 外国籍等児童生徒数 | 6,465人 | 8,034人 | 1,590人 |
| うち西区・中区・南区 | 1,633人 | 2,035人 | 402人 |
| 要日本語指導児童生徒数 | 1,188人 | 1,538人 | 350人 |
| うち西区・中区・南区 | 347人 | 637人 | 290人 |

② 日本語指導が必要な児童生徒が集中する学校（H27.5.1 現在）

| 区名 | 学校名 | 児童 生徒総数 | 外国籍等児童生徒数 | |
|----|----------|------------|-----------|--------|
| | | | 人数 | 要日本語指導 |
| 南区 | 南吉田小 | 686人 | 334人 | 157人 |
| 中区 | 横浜吉田中 | 393人 | 164人 | 81人 |
| 泉区 | 飯田北いちょう小 | 320人 | 166人 | 77人 |

(2) 日本語指導が必要な児童生徒の受入及び指導の不十分な態勢

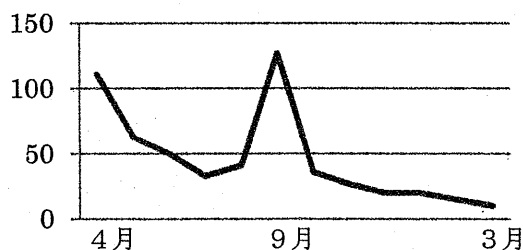
日本語指導が必要な児童生徒が様々な地域で増加していることから、これまで受入経験がない学校での受入や指導のための支援が必要です。また、年度途中での編入が多いことから、学校での受入や指導の態勢が整わない状況があります。

【参考】

① 外国籍等児童生徒及び日本語指導が必要な児童生徒の受入がない小中学校数

| | H24 | H27 |
|-----------|------|------|
| 外国籍等受入なし | 88校 | 81校 |
| 日本語指導受入なし | 300校 | 277校 |

② 27年度 月別日本語教室入級者数



2 日本語支援拠点施設の機能・効果

(1) 日本語指導・教科学習の準備

- ア 機能
- プレクラスでの学校生活の体験
 - 集中的な日本語指導
 - 日本語レベルや母語での学習状況等の確認
- イ 効果
- 児童生徒の学校生活への早期適応
 - できるだけ早い段階での日本語の習得
 - 学校での教科学習支援の充実

(2) 相談対応・コーディネート

- ア 機能
- 入学前等の学校ガイダンス
 - 保護者・児童生徒の相談支援と関係機関とのコーディネート
 - 進路・進学相談の充実
- イ 効果
- 児童生徒・保護者が安心して過ごせる学校づくり
 - 教職員の負担軽減

(3) 情報収集・提供、研修・研究

- ア 機能
- 拠点施設で蓄積したノウハウの各学校への周知
 - 日本語指導や教科学習のためのカリキュラム・教材等の研究及び教員育成
 - 区役所、YOKE 等の関係機関との連携
- イ 効果
- 学校における児童生徒の円滑な受入
 - 担当教員の専門性の向上
 - 学校に対する様々な支援の充実

3 今後の主なスケジュール

- 29年3月 コミュニティハウス（現横浜吉田中学校内）の移転
 4月 第二校舎の供用開始
 8月～9月 日本語支援拠点施設の運用開始

【参考】所在地周辺地図及び平面図

